

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
RDM7-014-83-2	2024通年	医学教育部(20150)	1, 2, 3, 4	2	他
科目名(講義題目)			担当教員		
腫瘍先端医学理論II【The Forefront of Clinical Oncology】(腫瘍先端医学理論II C6)			大屋 夏生, 村上 龍次, 山本 豊, 本原 剛志, 齋藤 文誉, 武笠 晃丈, 安永 純一郎, 野坂 生郷, 岩永 栄作		
学修成果とその割合					
1.高度な専門的知識・技能及び研究力……70% 2.学際的領域を理解できる深奥な教養力……10% 3.グローバルな視野と行動力……10% 4.地域社会を牽引するリーダー力……10%					
授業の形態	講義				
授業の方法	ビデオ講義あるいはe-ラーニング				
授業の目的	腫瘍先端医学理論IIにおける講義では、以下の領域における、腫瘍学の最先端に関する理解を深めることを目標とする。(1)放射線腫瘍学、(2)乳腺・内分泌腫瘍学、(3)婦人科腫瘍学、(4)脳神経腫瘍学、(5)造血腫瘍学				
学修目標	【A水準】 以下の領域における腫瘍学の最先端に関する理解を深めることを目標とする。 (1)放射線腫瘍学、(2)乳腺・内分泌腫瘍学、(3)婦人科腫瘍学、(4)脳神経腫瘍学、(5)造血腫瘍学 【C水準】 以下の領域における腫瘍学の最先端に関し、一定の知識を得ることを目標とする。 (1)放射線腫瘍学、(2)乳腺・内分泌腫瘍学、(3)婦人科腫瘍学、(4)脳神経腫瘍学、(5)造血腫瘍学				
授業の概要	(1)放射線腫瘍学の最先端を、特に高精度放射線治療技術に重点をおいて解説する。 (2)乳腺・内分泌腫瘍学について乳癌、甲状腺癌を中心に外科的療法、化学療法、分子標的治療などの先端医学について解説する。 (3)婦人科腫瘍学について、最近の動向と治療を中心に解説し、特に子宮頸癌の腔内照射・外照射、chemoradiationに言及する。 (4)脳神経腫瘍学の最先端を、特に悪性脳腫瘍の分子生物学に重点をおいて解説する。 (5)造血器腫瘍学における最先端を、腫瘍発生病態とその制御に重点をおいて解説する。				
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1		大屋 夏生【eJ-0】	放射線治療のメカニズム		
2		大屋 夏生【eJ-0】	定位放射線治療と強度変調放射線治療		
3		村上 龍次【eJ-0】	画像誘導放射線治療と適応放射線治療		
4		山本 豊【eJ-0】	乳がんの疫学と生物学的特徴		
5		山本 豊【eJ-0】	乳がん治療のパラダイムシフト		
6		山本 豊【eJ-0】	乳がんの分子標的治療		
7		本原 剛志【eJ-0】	婦人科悪性腫瘍の疫学と病因		
8		齋藤 文誉【eJ-0】	婦人科悪性腫瘍に対する治療の変遷		
9		本原 剛志【eJ-0】	婦人科悪性腫瘍における放射線治療		
10		武笠 晃丈【eJ-0】	脳腫瘍の分子生物学的特性		
11		武笠 晃丈【eJ-0】	脳腫瘍診断の最先端-		
12		武笠 晃丈【eJ-0】	脳腫瘍治療の最先端-		
13		岩永 栄作【eJ-0】	造血器腫瘍Ⅰ(白血球系)		
14		野坂 生郷【eJ-0】	造血器腫瘍Ⅱ(リンパ球系)		
15		安永 純一郎【eJ-0】	造血器腫瘍Ⅲ(ウイルスが引き起こす造血器腫瘍)		
授業外学修時間の目安	(講義科目) ・本科目は、90時間の学修が必要な内容で構成されている。授業は30時間分(2h×15コマ)となるため、60時間分相当の事前・事後学修(課題等含む)が、授業の理解を深めるために必要となる。				
テキスト	特になし				
参考文献	特になし				
履修条件	特になし				
評価方法・基準	講義中の質疑応答や、講義終了後に提示されるテーマに関するレポート等により、【授業の目的】に掲げた事項についての理解度を評価する。15回の講義における小テストあるいはレポートで評価し、上位10回分の点数の平均を成績とする。				
使用言語	「日本語」による授業				
教科書・資料の言語	「日本語」のテキスト				
実務経験を活かした授業	非該当				